

島民に愛され続ける

さつま島美人

さつま島美人の誕生

昭和38年、黒之瀬戸大橋建設期成会が発足し、いよいよ建設が現実のものとなり、便利になる喜びの反面、橋が完成すると、島外酒造メーカーからの攻勢を受けることが予想されていました。

「このまま単独で競争しても共倒れになる」という危機感から、当時、出水郡内でも最小規模（5社で1000石程度）ではあったものの、5社で協力していこうと協業化することを決定しました。

その後、段階的に準備を進め、昭和42年2月に、町内の酒造会社5社の共同瓶詰工場として「長島研醸有限会社」を設立し、それと同時に、それまで続いてきた各酒造の銘柄を廃止し、グループの統一銘柄として「さつま島美人」が誕生しました。

長島研醸有限会社の特徴

県内の酒造メーカーで協業化を進めた組織は、長島研醸以外に5社ありますが、その全てが協業化と同時に製造場も一本化されました。

これに対して、長島の酒造会社は、実質協業化はしたものの、製造場はそのまま残り、瓶詰工場として長島研醸有限会社を設立。焼酎の原酒製造までを担当する5社の蔵元と、原酒から製品化して出荷までを担当する長島研醸が役割分担し、一つの焼酎ができています。

このような形態は県内では珍しく、長島研醸グループの特徴といえます。

さつま島美人の特徴

通常、一般の酒造会社では、原料・仕込み水、度数調整する割水を替えるなどして色々な銘柄を製造していますが、ほとんどが1つの工場で作られています。

長島研醸の場合は、「さつま島美人」をはじめ「黒島美人」、「さつま島娘」、「島乙女」、「だんだん」のすべての商品が5つの蔵元の原酒をブレンドした焼酎となります。

5社の原酒をブレンドする比率は長島研醸設立からのもので、ブレンドした原酒を馴染ませ酒質の均一化を図るのに苦労はするものの、酒質の異なった5社の蔵元の焼酎がうまい具合に一体化し、まろやかな甘さ、絶妙な味わいの焼酎が生み出されています。



南洲酒造合資会社
(昭和24年創業)
代表社員 小川 俊寛(3代目)
(旧銘柄：南洲)

いつまでも、お客さまに愛飲していただける商品を作っていきたいと思えます。



杉本酒造合資会社
(大正5年創業)
代表社員 杉本 真輝(4代目)
(旧銘柄：白浪、島の寿)

県内でも珍しい長島ならではの「ブレンド焼酎」の造りに誇りを持っていきます。「さつま島美人」を、今後も島民の皆さまに愛されるよう、引き続き島内蔵元力を合わせて尽力していきたいと思えます。



宮内酒造合名会社
(明治43年創業)
代表社員 宮内 盛男(5代目)
(旧銘柄：五千石)

長島で島内の蔵が1つにまとまり生まれた「さつま島美人」。島民の皆さまに育てられ、愛されてきた理由をよく考えて、日々精進します。



長山酒造有限会社
(明治39年8月創業)
代表取締役 長山 正盛(4代目)
(旧銘柄：譽桜、萬代)

「焼酎魂-日々是鍛錬」、「焼酎道-熱く燃える」、「焼酎愛-我芋焼酎党」焼酎造りは、毎日が修行で熱く燃える心が大事である。また、自らが、芋焼酎を愛することが大事である。この3つをモットーに、ただひたむきに精一杯に焼酎造りに励んでいます。



宮乃露酒造株式会社
(明治6年創業)
代表取締役 宮崎 幸代(5代目)
(旧銘柄：宮乃露)

長島町に住むすべての人の誇りとなれるような美味しい焼酎であること。郷里からはなれてしまった人に郷里を思いはせることのできる芳醇な焼酎であること。まだ見ぬ人に日本の原風景を届けられる心のこもった焼酎であること。



長島研醸有限会社
(昭和42年設立)
代表取締役 小川 清洋(3代目)

グループ5社の伝統で醸した原酒を調和させ、創業時の味にこだわり、育ててくださった地元の皆さまにいつまでも愛される焼酎でありたい。